

太陽エネルギーデザイン研究会（SDC）会員各位

2021年1月 大野二郎

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年は年初より新型コロナウイルス感染症拡大により、十分な活動が出来なかったことが残念に思います。会員皆様と同様に SDC 例会・理事会でもリモート活動に終始しました。今年に入ってからコロナ感染症の再拡大により、首都圏の非常事態宣言の再発出する事態となっています。皆様の新型コロナウイルス感染予防と生活業務行動の自粛と変容が求められています。

また一方、近年の気候変動により、夏季の気温上昇による熱中症増加や異常乾燥による森林火災および、海水温上昇の影響で台風やハリケーンの巨大化が進んでいます。COP25（2019年マドリッド）では環境対策の遅い我国は NGO から不名誉な化石賞を貰っていましたが、菅新政権は 2020年10月、所信表明演説で 2050年までに温暖化効果ガスの排出を実質ゼロにすると表明し、国際的目標レベルに近づきました。

我国は 2011年3.11の東日本大震災と津波被害および福島原発事故を経験し未だに復旧復興に苦しんでいます。現代文明の化石燃料依存が結果的に地球温暖化の原因であり、私達は地球に生息する人類が加害者であり被害者でもあるというジレンマに陥っています。再生可能エネルギーにより持続可能な脱炭素社会の構築は可能で有ることは既に私達には分かっています。強欲な経済優先一辺倒主義から、本来の経世済民に向けた行動に起こす時です。利己主義から利他主義へ、渋沢栄一の「論語と算盤（道徳経済合一説）」にも有る様に、近江商人の「三方よし」（買い手よし、売り手よし、世間よし）に有る様に先人の知恵を活かした行動変容が求められます。SDC 発足 10年を経過して、もう一度設立趣旨を思いだしてみたいと思います。

『建築は古来より風雨や外敵から人間を守り快適な環境を作るチャルターとしての機能を果たしてきた。とりわけ産業革命以降の近代建築では、地球資源である鉄・コンクリート・ガラスを用いて、豊かで快適な都市・建築を築いて来た。これらは総て大量にエネルギーを消費する事で成り立っており、地球温暖化の原因ともなっている。我々建築家・建築技術者はこの事態に新たな技術で立ち向かわなければならぬ。地球温暖化に手をかす今までの設計手法では済まされない事態となった。化石燃料の枯渇、地球温暖化、森林破壊などが進み、地球生物存続の危機が迫っている現在、ソーラー建築は今や研究開発から大量実施導入へと駒をすすめなければ成らない時代に突入した（大野二郎）』（2002年/Journal of JSES 日本太陽エネルギー学会より）

2050年にカーボンニュートラルを実現するためには、建築・住宅分野での ZEB/ZEH を 100%再生可能エネルギーで賄う ZCN（ゼロネットカーボン）建築・住宅の概念を再構築する必要があります。すでに国際的に ESG 投資、RE100 宣言、SDGs（国連持続可能開発目標）など多くの宣言方針が出されています。建築・住宅分野では 2030年までに ZCN100% 達成する大きな夢を実現したいと思います。そのために今年 SDC2030 目標づくりを SDC 会員各位と検討議論を開始したいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。